

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.821 2022

2022年11月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



第48回全国学生YMCA夏期ゼミナール（9/9～12 東山荘で開催）

OPINION

カルト問題を考える

——第48回全国学生YMCA夏期ゼミナール講演「宗教二世の苦しみ」より抄録——
日本キリスト教団白河教会牧師 竹迫 之^{たけさこ いたる}

私は17歳のとき、大学受験で上京した日に統一教会の勧誘にあつて入会しました。紆余曲折を経て19歳で脱会。25歳で牧師になりました。以来ずっとカルト問題に関わっています。

7月の銃撃事件後、いくつかの団体と共にカルトの相談チャンネルを開設したところ、一日に数十件の相談が寄せられています。「妻が統一教会に2000万円を寄付したが取り戻せないか」「親が信者なので、自分も銃を作るような危険な人物だと思われてしまう」「統一教会は嫌いだけど（信者である）親は好き」など。特に信者の子である「二世」は、非常に規制の多い環境の中で育てられる上、統一教会を否定することは自身のルーツを否定することにもなるため問題は深刻です。

カルト問題は、1994年のオウム真理教事件から約30年間ほとんど報道されてこなかったため、あまり知られていませんが、カルトとは人権侵害など反社会的な行動をとる団体のことを意味します。たとえば病気の子の親に「因縁のせいだ。この壺を買わないとますます不幸になる」などと圧力をかける。フランスではこれを「無知・脆弱性の不法利用罪」として禁じてますが、弱みにつけこんで脅迫するのがカルトです。

ときおり、非現実的な教義を信じる宗教団体をカルトだと思っている人がいますが、教義内容がいけないものではありません。たしかに統一教会は独特の教義をもっていますが、もともと宗教は、天国とか死者の復活など非現実的なことを信じる側面をもっているものです。無宗教という人だってお守りを持ったり、死者を弔うといった宗教心はもっています。非合理的なことを信じているからカルトなのではなくて、その行動が反社会的かどうかで判断すべきです。

カルトを見抜くのは難しいことです。統一教会も最初はごく普通の友人として近づいてくる。そして「〇〇を買うと幸せになるよ」と勧める。それがいつしか「買わないと不幸になる」という脅迫に変わっていくんです。マインドコントロールです。そもそも「これを買うと豊かになる」ということには、「買わないと豊かになれない」というネガティブメッセージが含まれている。この手法は、マルチ商法やある種の自己啓発セミナーなどさまざまな場面で使われているので注意が必要です。

私は長年カルト問題に携わる中で、宗教の役割は何か、キリスト教と統一教会の違いは何かを考えて続けてきました。暫定的な表現ですが、あるがままの人を肯定して祝福するのがキリスト教であり、呪いをかけるのがカルトです。たとえば障がいのある子を障がいがあるまま受け入れて愛し、喜びや希望、安らぎをもたらすのが宗教であつて、「この教えに従わないと不幸になる」と脅迫するのがカルトです。弱く虐げられた人を、そのままの姿で尊重して祝福を伝えること。それが本来の宗教の目指すところです。YMCAもキリスト教を基盤にする団体として、条件つきではない真の幸せを届けられるよう目指してほしいと思います。（文・編集部）

パキスタン洪水へ 緊急支援開始

氷河の融解と異常な大雨によって国土の3分の1が水没、3,300万人以上が被災しているといわれるパキスタンでは、北部にあるラホールYMCAが食料や避難テントの配布など支援活動に奔走しています。

これに対し日本YMCA同盟は、皆さまからお預かりした国際協力募金（＝裏面）より2000ドルを送金。今後もアジア・太平洋YMCA同盟とともにサポートを継続の予定です。



●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

“海洋教育×YMCAキャンプ”で人を育てる 大阪YMCA「SDGsキャンププロジェクト」

海洋教育とYMCAのキャンプを一体化させて、SDGs（持続可能な開発目標）を実践していく人を育てたい。そんな願いから大阪YMCAでは、昨年度より「SDGsキャンププロジェクト」に取り組んでいます。国連が提唱するグローバルウィークのイベントとして、9月23日～25日にはYMCA阿南国際海洋センターで、社会人を対象に「SDGsリーダーズキャンプ」を開催。学校教員や大学生、団体職員など10人が参加し、東京大学海洋教育センター特任講師の田中康大さんから「初等・中等教育における海洋教育の展開」について学んだほか、海岸漂着ゴミ収集から環境・ゴミの課題を自分事として考えるワークショップや気候変動に関する酸性化実験、無人島での野外料理などを体験。阿南の海を満喫しながら、SDGsの本質を理解し、「自分事」として行動を起こしていく人を育てるための具体的な手法を学びました。参加者からは「SDGsを学校教育にどう導入するか模索中だったので参考になった」「子どもたちが日常生活に戻ってからも、水やゴミの問題を考えるきっかけになるといった嬉しい感想が寄せられました。



このプロジェクトは、日本財団の助成と朝日新聞社ほか多数の後援をいただいております。8月には中高生対象の「ジュニアリーダー養成キャンプ」も実施。その後「ぜひ全国で展開してほしい」という声もあり、10月には神奈川県三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジでも中高生対象のキャンプを実施しました。SDGsの2030年に主役となる人材育成のために、YMCAはユースエンカウンターを続けます。

大阪YMCA 阿南国際海洋センター所長 菅田 斉

学び深い4日間 全国学生YMCA夏期ゼミナール

全国34の大学内で活動している学生YMCAが9月9日～12日、「第48回全国学生YMCA夏期ゼミナール」を開催。東北から九州まで各地の学生24人が御殿場の「YMCA東山荘」に集い、学生部委員やスタッフ、OBOGと共に、学び深い、他では得られない4日間を過ごしました。コロナ禍でしばらく開催できなかったため、ほぼ全ての学生にとって初めての合宿プログラム。初日は静かに過ぎましたが、日が経つにつれて学生たちのエネルギーは満ちていき、最終夜のキャンプファイヤーでは燃え盛る薪を囲んで踊りだし、富士山麓の空に解放されていきました。

竹迫之牧師（＝1面）による講演や野田祥牧師（九州地区共働スタッフ）による聖書研究、シニアを含む自主ゼミ「異質な他者との出会い」など、夏期ゼミならではの体験に満ち溢れていたこともここに合わせて報告します。

日本YMCA同盟 石橋 英樹



小中学生1000人がプログラミングを体験 Amazon Cyber Robotics Challenge

生活環境によらず誰もがテクノロジーの面白さを体験できるよう願って、2019年度から日本YMCA同盟はアマゾンジャパンと共同でプログラミング教室を開催しています。2021年度からはアマゾンの倉庫で使われているロボット操作をゲーム感覚で体験する教材「アマゾン・サイバー・ロボティクス・チャレンジ」を導入。これまでに全国20のYMCAのほか10カ所余の児童養護施設など、1,000人以上の小中学生が体験しました。9月にはNPO法人メタノイアと共催し、クルド難民の子ども9人が参加。「ITスキルは世界のどこで生きることになっても活かせる」と好評でした。コロナ禍でオンライン化が加速する中、家庭のネット環境等によって格差が生じることのないよう、これからもアマゾンと共に活動を続けていきます。

日本YMCA同盟 大澤 篤人

ウクライナから日本へ YMCAネットワークで避難をサポート

>>> 避難者のニーズ調査を継続



東京都と7月に締結したプロジェクトにより日本YMCA同盟は、都営住宅等に避難中の方を戸別訪問して聞き取り調査を続けています。避難生活が長期化する中、「罪悪感（ギルティ・シンドローム）」を抱える方も多く、不安や不眠、パニック症状など心身に不調をきたす方も少なくありません。そんな状況をうけて「Ukraine Café HIMAWARI」（新宿区）では9月25日、「リフレッシュして秋を迎えよう」をテーマに、心のケアについての講座と子ども向けのアートワークショップを開催。60人余が参加しました。今後も一人ひとりの声に耳を傾け、適切な支援策につなげていくことが期待されています。

>>> ウクライナYMCAより、活動報告書



9月24日、ウクライナYMCAより7カ月間の状況をまとめた報告書が届きました。それによれば、ウクライナ国内20カ所のYMCAはいずれも建物に損傷はなく、各地で支援活動を継続中とのこと。当初は避難場所や生活物資の提供などが中心でしたが、現在は長引く戦下でのメンタルサポートが課題となっており、青少年のキャンプ（写真）やストレス対策講座などが開催されています。世界中からの募金により累計9万人以上に支援を提供できたと、感謝と共に報告されています。

日々の支援活動の様子はツイッターをご覧ください。
<https://twitter.com/YMCAHELPUKRAINE>



>>> 各地のイベントより

ポーランド大使館と協働で9月30日～10月1日、日本YMCA同盟に隣接するビル「A-Yotsuya」で、絵画展「ママ、戦争はいやだ」を開催。1939～45年のポーランド侵攻の際に描かれた子どもの絵画と今のウクライナの絵画を比較展示したもので、時を超えて近似する両国の絵は戦禍の非情を訴えています。今後は広島YMCAなど全国で展示予定です。



「とちぎYMCA日本におけるウクライナ避難民支援チャリティーコンサート」を9月29日、栃木県総合文化センターで開催。ピアニストの大野紘平氏（とちぎ未来大使）とトランペッターの田尻大喜氏（友情出演）による素敵な演奏を聴くことができました。参加者は予定より多く260人余り。厳しい感染対策の上でご来場くださいました。

ポジティブネットYMCA国際協力募金

世界120の国と地域にあるYMCAは、皆さまからの募金により、ウクライナ支援のほかアジア諸国での貧困対策や教育支援、紛争地域での被災者ケアなど各地の社会課題に取り組んでいます。ご協力をお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替口座（振替貯金）
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
- クレジットカード・銀行振込は下記サイトから
<https://www.ymcajapan.org/ukraine-donation/>

